

平成31年度（2019年度）教育事業

体験活動普及啓発事業

「さんべでミルクさんまい！ in Spring」

1 趣 旨

- ・地域の資源を活かしたプログラムを提供することで、三瓶地域の魅力に気づく。
- ・「生産→消費」のストーリーを取り入れ、「本物」の体験を提供し、より充実した体験活動の促進を図る。
- ・交流の家周辺で活動することで家族の絆を深めることや時間を守るなどの基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和元年 5月 5日（日）～ 5月 6日（月）＜1泊2日＞
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家とその周辺
- (3) 協 力 福間牧場
- (4) 対 象 小学生とその家族
- (5) 参加者 29名（10家族） ※募集30名
- (6) 日程・研修内容

	13:00	14:00	17:10	19:00	20:00	22:30
5/5 (日)	はじめの会	【牧場体験】森をぬけて、福間牧場へ！ 牛さんは、どう過ごしている・・・？ 乳しぼり、エサやりなど、牧場体験に出かけよう♪	夕べのつどい	夕食・入浴	【選択活動】 ①天体観察会（サヒメル） ②自主活動（カプラの活動等）	入浴・休憩・就寝

	6:30	7:00	7:40	8:40	9:30	13:30
5/6 (月)	起床	朝のつどい 清掃	朝食・清掃	退所点検	【野外炊飯】さんべでとれた牛乳で、あったかいシチューとパンをつくろう！ ダッチオーブンを使って、おいしいシチューとパンを作り、家族みんなで食べよう♪	おわりの会 解散

3 事業の特色

① 事業の特色

本事業において、三瓶の地域資源を活かした「牧場体験」を実施後、実際に牧場でとれた牛乳を材料に用いてアウトドアクッキングを行うことで、プログラムに「生産→消費」のストーリー性を取り入れた。参加者が「本物」に触れることで、より充実した体験活動の促進を図った。また、2家族1グループで活動することで、家族同士の交流の促進、子供たちの協働の場の提供を試みた。

② 運営のポイント

「牧場体験」と「アウトドアクッキング」については、地域の独自性を活かしたプログラムにするために、牧場主と協議を重ね、プログラム全体に「生産者の想い」を反映できるよう心掛けた。

「牧場体験」では、観光牧場とは一線を画し、至近距離で牛に触れあうこと、牧場主の人柄に触れたり、実際の仕事内容や牛の一生を聞いたりする機会を設け、参加者がより「本物」に触れるこ

とができるようにした。

「アウトドアクッキング」では、昨年度開催した同事業とは一部異なる方法で調理を行い、より美味しく作る方法を模索した。また、グループごとに準備から後片付けまでを全て行うことで、協働の場を設け、参加者同士の交流のきっかけをつくった。

③ 広報のポイント

昨年度開催した同事業において、抽選により参加できなかった家族、事情によりキャンセルした家族を対象に広報を行った。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

(2) 参加者の声

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

- ・食材を作る(搾乳)から調理するところまでつながっていて、良い体験であった。
- ・普段何気なく飲んでいる牛乳のことがよくわかる説明で、貴重な学びとなった。
- ・参加人数が適切であり、まとまっていた。
- ・夜のイベントをもう少し充実させてほしい。

5 成果と課題

《成果》

- ・対象を絞った広報で参加を得られる(ニーズがある)事業であり、定期的実施に向けたきっかけとなった。また、普段体験することのできないプログラムであるため、地域の魅力に興味をもつきっかけになる事業として今後展開できる可能性を得た。
- ・牧場体験では、牛と様々な形で触れ合うことや生産者から実際の仕事内容や牛の一生の話を聞き、アウトドアクッキングでは、そのつながりを感じながら調理・食事をするため、「食」に対する関心を高めることができた。
- ・活動の準備から片づけを全て行うことで、幼児や小学生が積極的に動く様子が見られ、家族や他の人と協力しながら活動する楽しさを感じることもできた。

《課題》

- ・今回は、昨年度2月に実施した同事業で抽選により参加できなかった家族や事情によりキャンセルした家族を対象に広報を行い、受付は先着順とした。申込期限前の時点で定員に達した場合の対応が不十分であったため、今後は事前案内の内容を十分検討するとともに、申込方法の見直しを行う。
- ・「牧場体験」では、見学と講話があるため、活動が詰め込まれた形となり、余裕があまりなかった。十分な時間を確保するために、活動の開始時間を早める、夜の活動でも希望者のみ牧場体験を行うなど、スケジュールの調整を行う必要がある。



(担当：事業推進係 狩谷 順子)